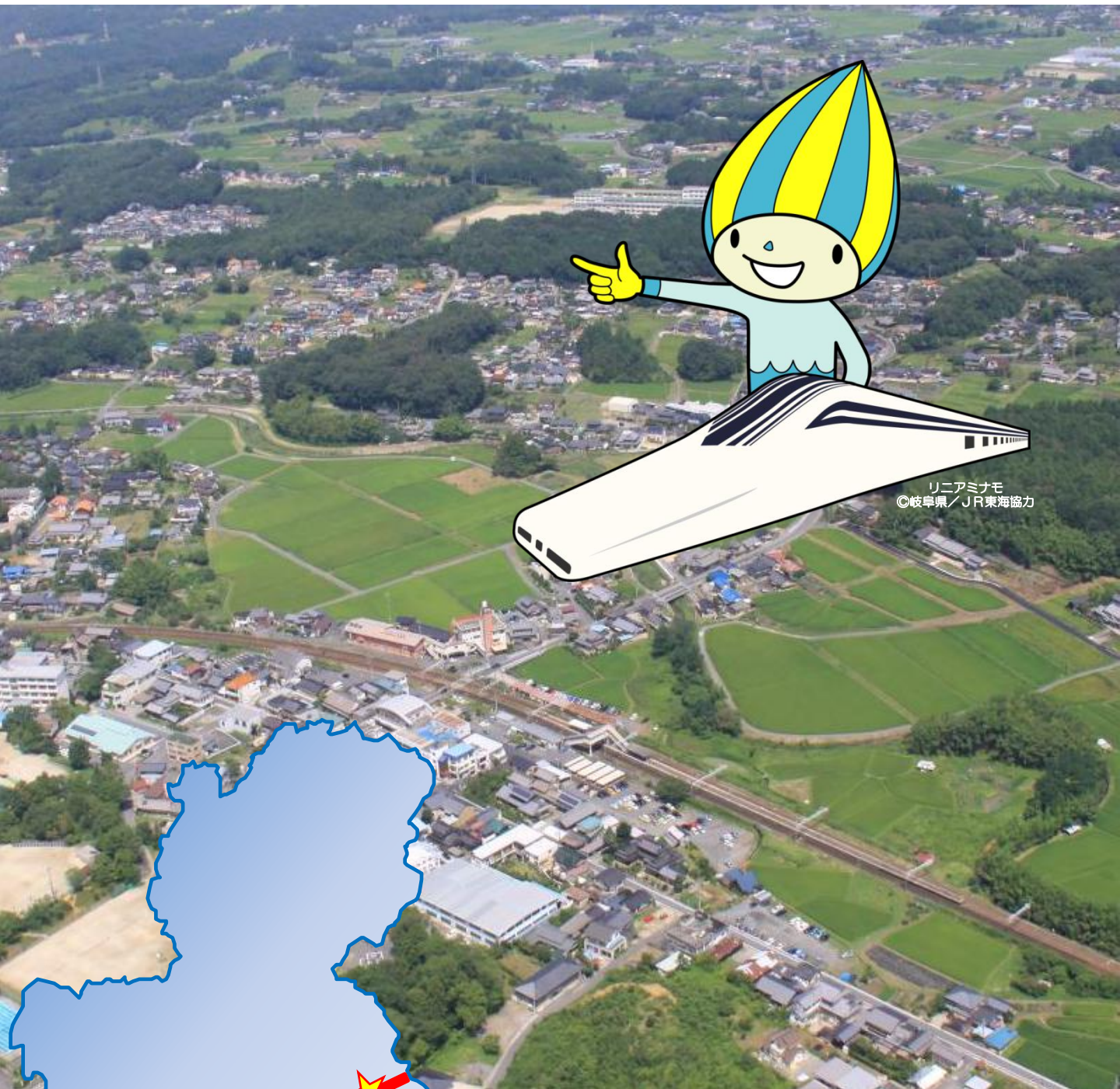


リニア岐阜県駅周辺整備基本計画



リニアミナモ
©岐阜県/JR東海協力

中津川市 JR中央本線美乃坂本駅周辺

中津川市
リニア岐阜県駅

平成27年3月

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会
基盤整備部会

1 基本計画について

この基本計画は、岐阜県リニア中央新幹線活用戦略や沿線市町のまちづくり計画を踏まえ、リニア岐阜県駅(以下、「リニア駅」という。)の駅前広場をはじめとする駅周辺施設等の整備に係る全体像や必要とされる個別機能を整理し、今後の各施設における具体的な整備計画の基となるものです。



2 駅周辺整備の基本方針

1 岐阜県の東の玄関口としての駅・「清流の国ぎふ」を感じさせる駅

- 県内及び隣接県の主要都市や観光地への広域アクセス拠点として整備します
- 県外からの訪問者に「清流の国ぎふ」という岐阜県のイメージをアピールします
- 県産素材を活用するなど、岐阜県独自の魅力を発信するランドマークとして整備します
- 駅からの眺望を重視し恵那山などの自然景観と融合した駅前広場や親水性のある空間を整備します

2 コンパクトかつ交通結節機能を重視した駅

- コンパクトな空間に必要な機能を備えた、利用しやすい駅・駅前広場とします
- 観光客などの駅利用者が円滑に乗換えができるよう、交通結節機能を重視した整備を行います
- 段階的な整備が可能な施設については、リニアの建設段階や開業後の状況を見ながら、ニーズに対応した整備を行います

3 利便性に優れた駅

- 二次交通(鉄道・バス・タクシー・レンタカー等)と円滑に乗換えができる駅前広場とします
- リニア駅と在来線美乃坂本駅を結ぶ連絡施設を設置します
- 公共交通と私的交通の交錯回避、来訪者の利便性向上のため、各駅前広場で交通機能を分担します
- 自動車、歩行者の動線を考慮し、リニア利用者や地域住民が利用しやすい駅とします

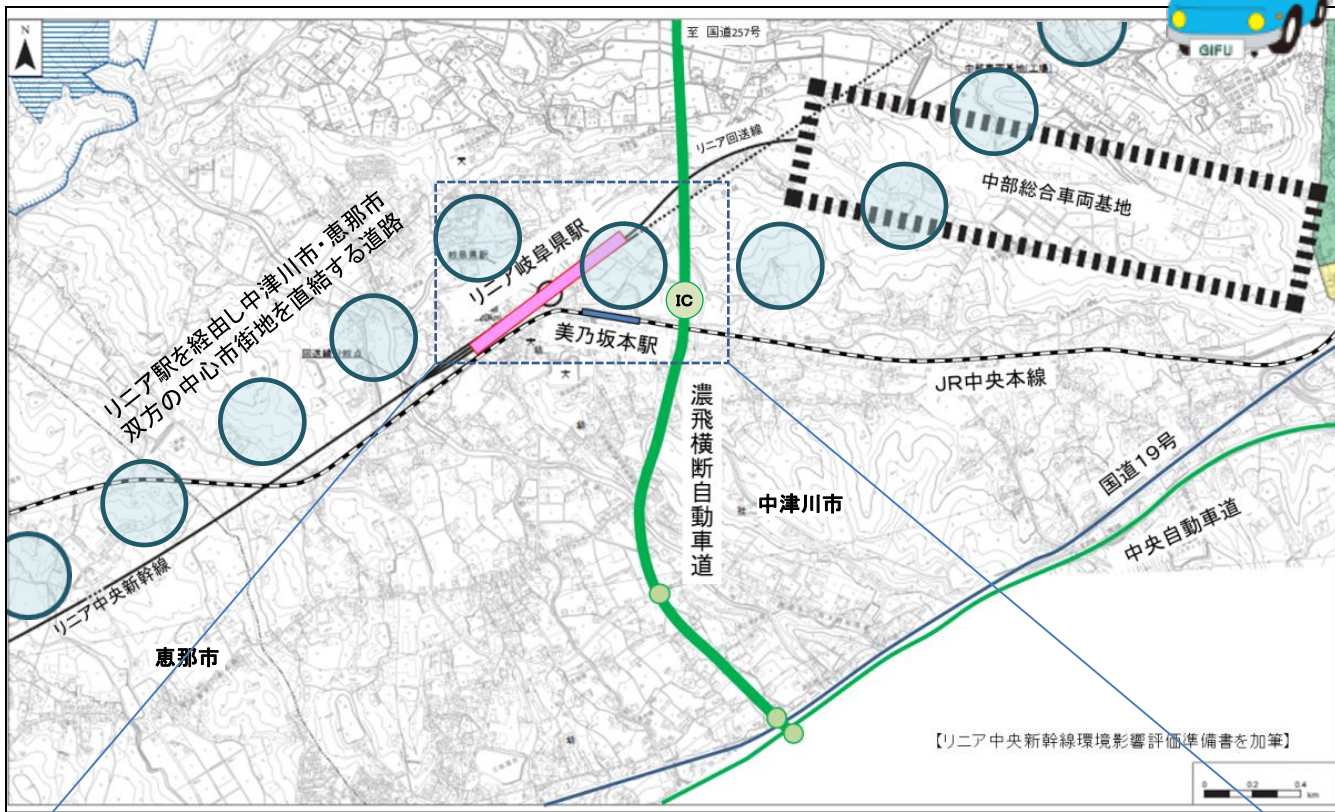
4 にぎわいのある駅

- 来訪者の求める情報やサービスが十分に提供されるとともに、岐阜県をPRできる駅にします
- 地元の特産品や工芸品などの土産物を買うことができる施設を整備します
- リニア利用者だけでなく、在来線利用者などの地域住民も集う交流拠点の整備を検討します

駅周辺整備については、リニア開業となる2027年を目指して整備を行うものとしませんが、駅利用者のニーズや周辺の土地利用の状況等を見ながら段階的な整備を進めることを基本とします。

整備手法については、PFIなど民間活力を活用する手法も含め、今後さらに比較検討を進めていきます。

3 駅周辺道路及び駅前広場の整備



駅周辺拡大

リニア駅の南北に中央駅前広場(仮称)と北口駅前広場(仮称)を新たに整備します。

また、美乃坂本駅南側の南口駅前広場(仮称)については、リニアの建設段階や開業後の状況を見ながら段階的な整備を検討します。

県道 苗木・恵那線

リニア中央新幹線

濃飛横断自動車道と、駅前広場に接続する道路を整備します。

北口駅前広場(仮称)

中央駅前広場(仮称)

美乃坂本駅

南口駅前広場(仮称)

千旦林川

JR中央本線

IC

濃飛横断自動車道

リニア駅と中央本線を南北に横断する道路を新たに計画します。

美乃坂本駅西側の踏切は、自転車・歩行者専用の横断機能を残します。

安全・安心を確保するため、周辺の土地利用に配慮しつつ、千旦林川を改修します。

① 中央駅前広場(仮称)

- 岐阜県の東の玄関口として、県外からのお客様をお迎えするメインの広場として整備します。
- 訪れたお客様に、岐阜らしさ(清流の国ぎふ)を感じていただくために、恵那山をはじめとする周囲の眺望や景観に配慮した整備を行います。
- 訪れたお客様が、二次交通(鉄道、バス、タクシー等)への円滑な乗継ぎができるよう、公共交通中心の広場とします。
- 公共交通と私的交通の広場内の動線及び広場への進入動線を可能な限り分離することを基本とし、両動線が交錯し支障を来さないような自家用車乗降場の配置を検討します。
- リニア駅内にレンタカー受付窓口を設け、速やかに手続きが行えるようにするとともに、駅出入口付近にレンタカー専用乗降場を設け、手続き後速やかに乗車できる施設の整備を検討します。

広場に配置する主な施設

- | | |
|---------------|------------------------|
| ・タクシー乗降場(3台) | ・バス乗降場(路線バス2台・観光バス2台) |
| ・タクシー駐車場(10台) | ・バス駐車場(路線バス2台・観光バス10台) |
| ・レンタカー乗降場(1台) | ・自家用車乗降場(3台) 等 |

② 北口駅前広場(仮称)

- 県内及び近隣県のリニア駅利用者が中心に利用する、私的交通(自家用車)中心の広場とします。
- 短時間駐車場については、リニア駅高架下空間の活用も検討します。

広場に配置する主な施設

- | | |
|------------------|----------------|
| ・自家用車短時間駐車場(40台) | ・自家用車乗降場(13台) |
| ・タクシー乗降場(2台) | ・タクシー駐車場(1台) 等 |

③ 美乃坂本駅及び南口駅前広場(仮称)

- 南口駅前広場(仮称)については、美乃坂本駅利用者が中心に利用する広場としてリニア建設段階や開業後の状況を見ながら段階的な整備を検討します。
- 連絡施設の接続及びバリアフリー化のため、在来線駅的美乃坂本駅を橋上駅に改修し、駅の南北両側に出入口を設置することについてJR東海と協議を進めます。

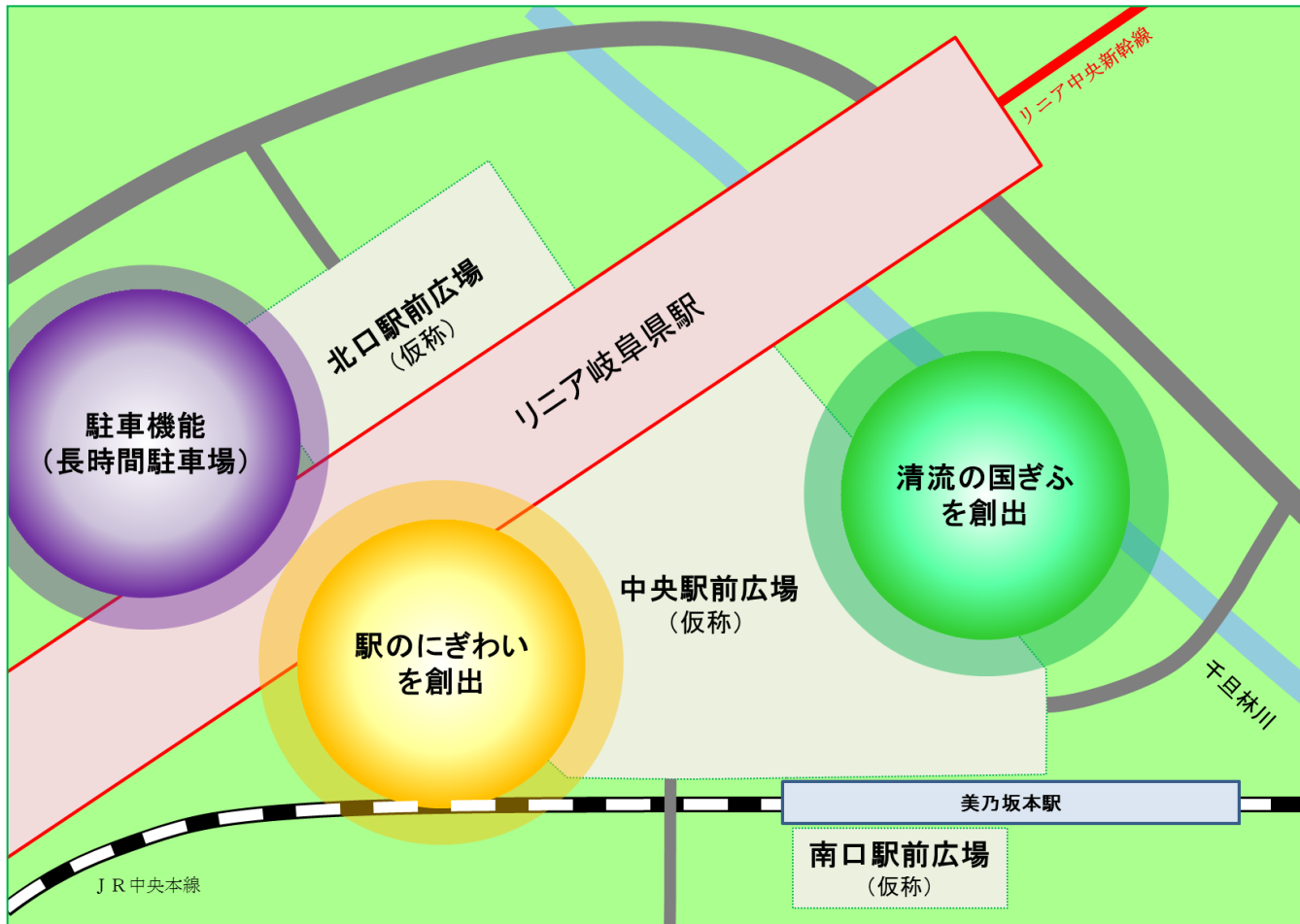
④ 駅間連絡施設

- 連絡施設は、乗換え利便性を高めるため、できる限り短い距離で両駅の2階間を接続することを検討します。
- 恵那山などの眺望を施設内から展望しやすいような施設構造とし、また施設自体も周辺の景観と調和するような意匠となるよう検討します。

⑤ その他

- 連絡施設及び駅前広場内各施設への県産素材の活用を検討するとともに、リニア駅及び改修後の美乃坂本駅の外装や内装等への活用についてJR東海との協議を進めます。
- リニア駅改札口の位置については、乗換え利便性の高い位置となるようJR東海と協議を進めます。
- 施設を結ぶ主要な動線に屋根付の通路を敷設するとともに、バリアフリーにも配慮し、利用者が快適に移動できるように整備します。
- 美乃坂本駅西側にある踏切については、通勤・通学や買い物など、地域の生活に重要なものであることから、自転車・歩行者専用の横断機能を残すこととします。
- リニア駅の周辺に駐輪場を整備します。

5 駅前広場周辺に配置する機能



①「清流の国ぎふ」を創出(親水性のある空間の整備)

- 駅の東側を千旦林川が流れることから、隣接する空間等のオープンスペースを活用し、「清流の国ぎふ」を感じてもらえるような公園の整備を検討します。
- 公園に、駅利用者や地元の方々が集えるような休憩施設や多目的広場の整備を検討します。
- 駅から公園までの歩道、千旦林川沿いを回遊できるような歩道などの整備を検討します。

② 駅のにぎわいを創出

○ 駅利用者を中心としたにぎわいを創出するため、リニア駅及び周辺には、岐阜県内の観光地や特産品等を紹介する施設、駅利用者の利便性を高めるサービス施設等を配置します。

・観光案内所、物産販売店、売店、飲食店 など

③ 駐車機能(長時間駐車場)

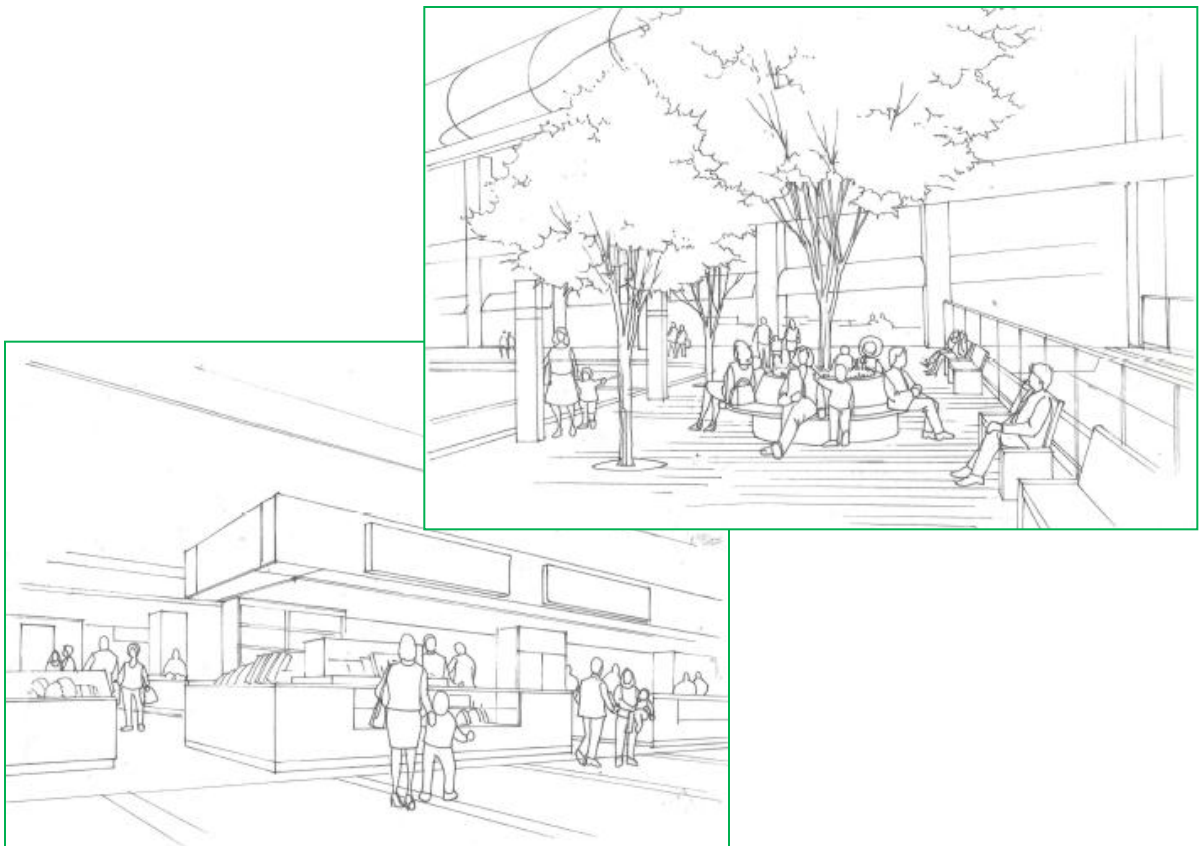
○ 自家用車交通の中心となる北口駅前広場の周辺に設置します。

○ 限られた用地の中での整備となるため、駐車場の立体化やリニア駅の高架下空間の活用を検討します。

整備台数の目安

※リニア駅利用者数推計に基づく試算

約 600台(名古屋開業時) ~ 約1,000台(大阪開業時・誘客等の取組み実施)

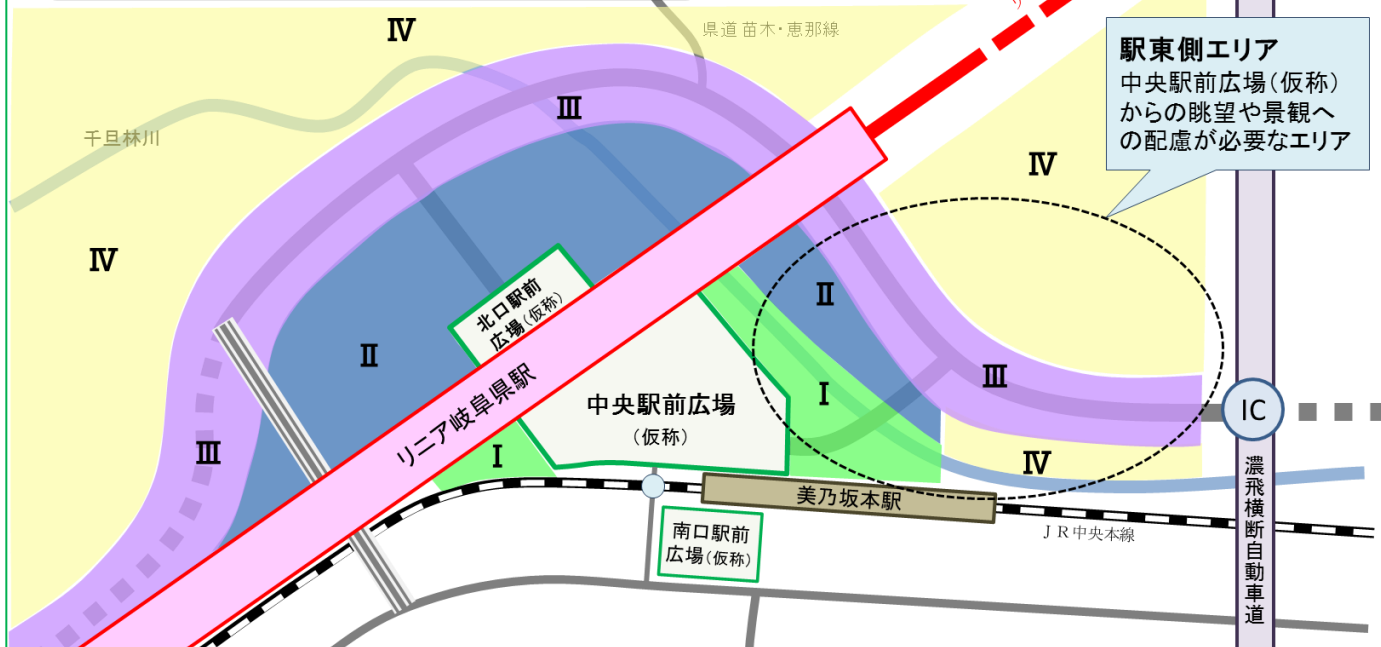


6 駅周辺に配置する機能（施設）



駅周辺エリアのゾーニング

本ゾーニングのうち、具体的な機能の配置や整備対象区域については、現在検討中の土地区画整理事業や都市計画の検討の中で決定します。



駅東側エリア
中央駅前広場(仮称)からの眺望や景観への配慮が必要なエリア

エリア I

- ・中央駅前広場(仮称)の出入口に位置するリニア岐阜県駅の玄関口となるエリア
- ・駅からの徒歩圏内であり駅利用者が気軽に立ち寄ることが可能
- ・東側については、千旦林川に隣接し、自然を感じさせる空間の創出が可能
- ・西側については、駅利用者の両駅間の乗換え動線を活用することが可能

配置に適する主な機能： 広場・公園機能 など

エリア II

- ・県内利用者による利用が中心となる北口駅前広場(仮称)周辺に位置するエリア
- ・駅からの徒歩圏内であり駅利用者が気軽に立ち寄ることが可能
- ・リニアの高架に近接するため居住には適していないが、駅利用の利便性は高い

配置に適する主な機能： 駐車機能、業務機能、商業機能 など

エリア III

- ・駅利用車両が多数往来する幹線道路の沿線エリア

配置に適する主な機能： 商業機能 など

エリア IV

- ・リニアの高架や幹線道路から離れた閑静なエリア

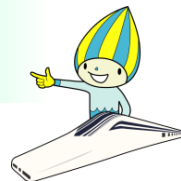
配置に適する主な機能： 居住機能 など

駅東側エリア

- ・恵那山方向の眺望において、リニア駅及び駅前広場の眼前に広がるエリアであり、眺望や景観への配慮が特に必要なエリア

高層建築物の規制 など

7 今後の進め方



この基本計画では、リニア駅周辺整備の基本的な考え方や、駅前広場の位置づけ等を整理しましたが、今後は各施設の整備主体を決定していくとともに、専門家や地域住民の意見等を踏まえながら具体的かつ総合的な検討を行う概略設計を進めていきます。

また、JR東海等の関係機関との協議や都市計画との調整を図り、有効な土地利用や機能的な交通結節施設の検討を行い、今後の計画を具体化していきます。



山梨リニア実験線で走行する新型車両「L0系」（写真提供：山梨県）

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会
基盤整備部会

〔事務局〕
〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1
岐阜県都市建築部公共交通課

TEL 058-272-1111(内線2734)
FAX 058-278-2765
E-MAIL c11134@pref.gifu.lg.jp